

豊橋アーティスト・イン・レジデンス 2017

ダンス・レジデンス

とよはしが
踊った!
躍った!!

【Artists】

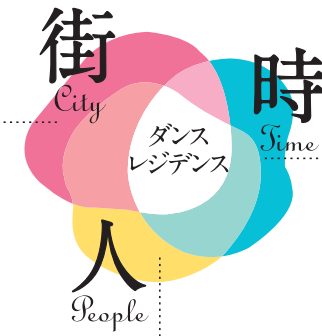
鈴木ユキオ / YUKIO SUZUKI Projects
岡田利規 / チェルフィッチュ
浅井信好 / 月灯りの移動劇場
相模友士郎
中村 蓉
平井優子
Rie Tashiro / AYATORI

鈴木ユキオ稽古場見学会、成果報告会より

豊橋市 / 穂の国とよはし芸術劇場PLAT

「アーティスト・イン・レジデンス」とは、優れたアーティストがより飛躍できるよう支援するため、創作・稽古の場を提供する事業。豊橋アーティスト・イン・レジデンスでは〈ダンス・レジデンス〉と題して、ダンスや身体表現に特徴を持つアーティストたちを迎え入れています。2017年度は、国内外で活躍する7組のアーティスト及びカンパニーが参加。自らの創作はもちろん、市民参加プログラムや稽古場公開なども行いました。私たちの街・豊橋は、海と山どちらの自然にも囲まれ、気候は温暖。また、アクセス良好な東西の中継地として文化的にも発展してきました。あらゆるもの・ことが程良くそろう、でも決して過剰ではない。そんな環境はアーティストたちに心穏やかな時間を提供する一方、アーティストによって街の魅力が再発見され、世界に向けて発信されます。〈ダンス・レジデンス〉では、豊橋で舞台芸術が生まれる瞬間、アートへの芽を支援します。そうして10年後、100年後の豊橋に、アートの大樹が繁っているとしたら――。それは、本当の豊かさのシンボルとなるのかもしれませんが。

本当に豊かな“とよはし”を求めて自分が住む街の魅力は、案外、気づきにくいもの。でも、ちょっと視点を変えるだけで、知っていたもの・ことさえ新しく映るから不思議。アートには、そんな魔法のような力があります。また、豊橋で育った作品が世界の大舞台で絶賛されることもありえます。その時、多くの人々が豊橋という街にも注目するでしょう。街の潜在能力を引き出し、全世界へと発信してくれるアーティストたちは、豊橋に本当の豊かさを還元してくれるのです。



リアル横断型交流

仮に適正年齢があったとしても、人は自由に作品を選び、自在に体感することができます。〈ダンス・レジデンス〉では舞台芸術を鑑賞するだけでなく、稽古見学やワークショップなどを通じてアーティストの息吹を間近で感じると同時に、その場を共有した他の市民とも交流することになります。子どもと親、学生とシニア……、老若男女、世代を越えた者同士が自然と意見を交わすことができるのも、アートの現場ならではの面白さでしょう。

過去・現在・未来をつなぐ

滞在するアーティストたちは、豊橋から有形無形の影響を受けます。それは今の街の在り様に起因するものかもしれませんが、歴史に由来するものかもしれません。あるいは、未来のイメージが創作につながることもあるでしょう。小学生からシニアまで幅広い世代が関わった〈ダンス・レジデンス〉は、豊橋の過去・現在・未来が交錯する場になりました。また、地元アーティストを刺激した点でも、今後の文化振興に大きく貢献しています。

海と山と文化に恵まれた とよはしが育むアートの芽

DANCE RESIDENCE

街 City

本当に豊かな
“とよはし”を求めて



相模友士郎・佐藤健太郎ワークショップ「PLATから金閣寺まで30分で歩いていく」



豊橋と京都を重ねてみたら……!?

演出家の相模友士郎はダンサー・振付家の佐藤健太郎とともに、ワークショップ「PLATから金閣寺まで30分で歩いていく」を実施。これは京都・金閣寺から徒歩30分に位置する場所を地図で検索して、その場所を穂の国とよはし芸術劇場PLATに見立て、金閣寺の方角まで歩いてみるというユニークな試みでした。当然、地形や道は一致していないのでスムーズには進みませんが、それをどうクリアするか考えることが醍醐味。また必ずと参加者は、あらためて豊橋という“街のつくり”も意識することになりました。相模と佐藤は「ナビゲーションズ」というシリーズを各地で公演していて、同作は観客によって変わる偶発的要素を含んでいるため、毎回違ったことが起きる状況に対応しながら上演するのが特徴になっています。ふたりの予定調和から離れた考えは、もの見方に新たな視点を示してくれました。



「ナビゲーションズ」



開発ビルの外観

既存の施設の可能性を拓く

演出家の相模友士郎はレジデンスを経た9月29日～10月1日、豊橋からも程近い「開発ビル」で『ナビゲーションズ』を愛知初上演しました。開発ビルは、あいちトリエンナーレ2016や、ええじゃないかとよはし映画祭2018でも活用されてきた実績はありますが、インディペンデント系の企画で使用するのは珍しいケース。大きな組織の興行でなくても既存の施設を利用できると実践して見せたことは、地元アーティストにも刺激になったはず。『ナビゲーションズ』はダンサー・振付家の佐藤健太郎と共同制作し、全国で評判を呼んできた作品。もともと演劇から始まり、今では現代アートの領域にもある相模は、観客から一人1点ずつ所持品を預かることで舞台上に偶発性を盛り込みながら、ものと身体の関係を探っています。豊橋公演を観た人は貴重な体験を得たと同時に、取り壊しが決まっている開発ビルの空気や匂いも忘れられないものとなったはず。



「ナビゲーションズ」終演後のアフタートークより

国際的・歴史的傑作の息吹を豊橋に!



知ってる場所も知らない場所も15秒でPR

コンテンポラリーダンサーの中村蓉は滞在中に市内をめぐり、インスパイアされる場所を見つけては約15秒のダンス動画を制作してきました。そのロケ地たるや「豊橋市公会堂」「三の丸会館」といった風情漂う建物もあれば、喫茶店「甘党トキワ」や「スマートボール アサクラ」といった親しみのあるスポット、さらには「愛豊卓球センター」といった知る人ぞ知るコアな施設まで! 市民ではかえって気づきにくいところにも目を向け、自らのダンスとともに各所をPRしてくれました。しかも一連の動画はYouTubeにアップして世界配信されています。独創的なダンスはもちろん、豊かな色彩感覚、ユーモアの精神もふんだんな動画は、豊橋の街の魅力や面白さを鮮やかに伝えてくれます。



中村 蓉 動画制作「きょうのとよはし」

演劇作家で小説家でもある岡田利規は、チェルフィッチュという集団を主宰する気鋭。彼の代表作『三月の5日間』は一見ダラダラと続く口語体の会話の中に、2003年に勃発したイラク戦争のこと、その頃の日本の空気を織り込んだ傑作です。日本の演劇の流れを大きく変えた同作は、国際的にも高く評価されています。岡田はチェルフィッチュの20周年にあたり、代表作のリクリエーション(再創作)に挑みました。そして、

その稽古の場として豊橋にやってきたのです。熊本在住の岡田は豊橋での創作を経て、12月に横浜で『三月の5日間』リクリエーションを世界初演。全国ツアーでは豊橋にも再び訪れ、進化した舞台を披露してくれました。さらに本作はアジア、ヨーロッパでの海外公演が予定されており、創作をサポートした豊橋の名も世界に知らしめられます。

『三月の5日間』リクリエーション創作風景



人
People

リアル横断型交流



小学生からシニア までが一緒にダンス!

鈴木ユキオによる「はじめての」ダンスワークショップは、文字どおり未経験者大歓迎。年齢も小学生以上であればOKという形で幅広く参加を募りました。実際に集まったのは小学生から60代までの老若男女。普段なかなか接点のないであろう人々が、アーティストやダンスを介して出会えたことは、それだけでも貴重な場となりました。またシニア代はアート、舞台芸術と接する機会が少なくなりがちですが、このワークショップでグッと距離が近づいた様子。特に男性陣は鈴木ユキオの舞踊哲学に刺激されるところが大きかったようで、童心に返ったかのごとく自由に身体と向き合う姿が印象的でした。逆に、若い高校生の方が「自由にやるのは難しい」と悪戦苦闘するなんてことも。そうして互いに見たり見られたりしながら、有意義な異世代交流が実現しました。



鈴木ユキオ「はじめての」
ダンスワークショップ



ダンス漬け合宿で志を共有する

創作集団「AYATORI」を主宰するRie Tashiro(タシロ・リエ)は、滞在中の週末を活かして短期集中型のダンス合宿を敢行! 最終日には一般公開する形で、ミニショーイングも行いました。金土日をみっちり使った合宿には地元アーティストの参加も見られ、国際的に活躍するアーティストと濃密な交流が果たせました。Tashiroはテクノロジーや現代的なメディアを用いる

ことにも積極的で、ダンスだけでなく音楽・建築などの異ジャンルも取り込んだ作品で定評があります。彼女のワークショップでは技術的なことだけでなく、枠にとらわれない創作精神そのものも参加者と共有することになったはず。その発想の柔軟性は、ダンスやアート以外の現場でも大いに役立つものとなるでしょう。

→浅井信好と杉山絵理が
豊橋市立羽根井小学校
で行ったワークショップ



Rie Tashiro(AYATORI)ダンス合宿&ミニショーイング



見学からもアリなんです。

ダンス未経験者は、興味があっても踊る勇気がないということは多いでしょう。そんな人に向けては稽古場を公開することで、まずはダンスに親しみをもってもらえるようにしています。もちろん踊るための第一歩としてだけでなく、鑑賞者が創作プロセスの一端を知ることができるという意味でも稽古場見学会には価値があります。ワークショップ同様に老若男女が集うため、自然とボーダレスな交流が生まれ、多様な視点や意見に触れることができるのも楽しいところ。Rie Tashiroの稽古場では舞台装置まで間近で見られたため、参加者はそのユニークな作りに興味津々。ちょっと舞台の裏側をのぞくような体験となり、好評でした。(ダンス・レジデンス)では、ダンスへの興味や経験のグラデーションにも配慮しながら、様々なプログラムを実施しています。



発光するオブジェ・鏡・照明
機材を組み合わせ、水辺の
ようにキラキラ輝く映像を奥
の壁面に投影する舞台装置

Rie Tashiro(AYATORI)
成果発表会



中村蓉と酒井直之が
豊橋市立下地小学校で
行ったワークショップ

私たちの学校に アーティストが来た〜♪

〈ダンス・レジデンス〉は穂の国とよはし芸術劇場を拠点として展開されますが、アーティストが学校を訪れて“出前授業”(アウトリーチ)を行うこともあります。2017年度は中村蓉が新作デュオのパートナー・酒井直之を伴って、下地小学校と高師小学校に。また、鈴木ユキオがカンパニーメンバーの安次嶺菜緒とともに五並中学校へ、浅井信好が杉山絵理とともに下条小学校、羽根井小学校へと、豊橋市立の小中学校を訪問。体育館でダンスワークショップを開きました。ダンスはいまや学校教育のカリキュラムにも加えられ、児童や学生にとって身近になりつつあるものの、専門家に教えてもらう機会は希少です。子どもたちには今回、ダンスが単に動いたり踊ったりすることを指すのではなく、つくるもの、表現するものであることを少しでも感じてもらうのではないのでしょうか。アーティストとの出会いは、そのアートの本質を理解する重要なチャンスとなるのです。

※アウトリーチ事業は「芸術文化体験普及事業」として実施。

時

Time

過去・現在・未来をつなぐ



小さな子どもたちが 壮大なアートを生む

世界的アーティスト集団「ダムタイプ」のメンバーでありダンサー・振付家の平井優子は、小学校1~4年生まで対象にしたワークショップ「ダンス ストーリー ショウ Dance Story Show」を開催。同じく国内外で活躍するダンサー・白井剛の協力を得て、まずふたりのダンスを鑑賞してもらいました。そこから感じたことを、絵や言葉にしていく作業を実践。できた絵や言葉を次は身体や声で表現し、最終的には“動く紙芝居”のような作品に仕立て上げました。このプロセスの途中、地元コーラスグループの男性が朗読で、愛知大学で教鞭をとる山田晋平が映像制作で参加。豊橋で育まれた人材と未来を担う子どもたちが出会い、予定外のコラボレーションまで実現しました。ダンス、舞台芸術は限られた時間の中でのみ成立して、終われば消えてしまうものですが、稀有な体験や築かれた人間関係は一生のものとなって残っていきます。



平井優子 子ども向けワークショップ
「ダンス ストーリー ショウ Dance Story Show」



温故知新を 身体で実感

動画制作、ワークショップ、アウトリーチ、稽古場見学会と、多彩なプログラムを実施した中村蓉の、ユニーク極まるワークショップが『歌謡曲スイッチ in とよはし』。日本の歌謡史に輝く名曲に乗ってダンスをするという親しみやすい内容だけに、高校生から中高年世代まで参加しました。ただし、楽しい企画でも、市民にしっかりアートの種を植え付けるのが中村流。YouTubeにアップされた動画『きょうのとよはし』を見てもわかるとおり、自作に昭和レトロのような雰囲気漂わす中村は、このワークショップでは古き良き日本の曲に光を当てました。しかも、その魅力を最先端のコンテンポラリーダンスで再確認したワケです。ひと口に歌謡曲と言っても、世代が変われば思い出の曲もガラリと変わってしまうもの。そういった時間の問題もはらんだ『歌謡曲スイッチ』は、また新しい視点に気づかせてくれました。



中村蓉ワークショップ
『歌謡曲スイッチ in とよはし』



浅井信好「ワークショップ緑日
からだで絵本を描こう」

音楽・図工・体育……、でも世界は分類できない

成長過程にある子どもたちは、優れたアーティストと触れ合うことで鋭い感性が磨かれていきます。故郷・愛知を飛び出し、仏パリをはじめ世界各地を渡り歩いてアートを追求してきた浅井信好は、主に中・高学年の小学生を対象に『ワークショップ緑日 からだで絵本を描こう』を開催しました。浅井がプロデュースする団体「月灯りの移動劇場」の舞台ではダンスや音楽、美術ほか多彩なアートが混然一体となって

展開されますが、このワークショップでもダンスを踊るだけでなく、音楽も演奏するなど自由自在。子どもたちはバラエティ豊かな表現を体験しました。学校では音楽の時間・図工の時間というように授業が分かれていても、日常生活は分類できることばかりではありません。この機にアートの在り様を知った子どもたちが、さらに進化した感性を発揮してくれる日が来るかもしれません。



June

歴史的傑作が豊橋から未来へ——

岡田利規率いる「チェルフィッチュ」は、2004年初演の代表作『三月の5日間』のリクリエーション（再創作）を行うため〈ダンス・レジデンス〉に参加しました。2000年代以降に出てきた表現者たちにとってはバイブルのような戯曲であり、それが2017年という時代にどう立ち上がってくるのかは大いに注目を集めました。渋谷を舞台に、当時起きたイラク戦争を重要な題材として扱う本作は、歴史的傑作でありながら、13年の時を経てなお日本の未来を問う作品となりました。それは豊橋に暮らす私たちにとっても無関係とは言えません。なお、岡田たちはワークショップや成果報告会を通して今後につながる貢献をしています。一方〈ダンス・レジデンス〉に参加したアーティスト側も、市民の声をじかに聞くことで刺激を受け、自らの創作を検証できました。そうやって豊橋の空気、市民の言葉が、微かにでもアートの未来に関わるのだとしたら、うれしいような誇らしいような気持ちになりませんか？



岡田利規／チェルフィッチュ「三月の5日間」リクリエーション成果報告会

鈴木ユキオ / YUKIO SUZUKI Projects

1997年に舞踏を始め、2000年より自身の創作活動を開始。しなやかで繊細に、かつ空間からはみだすような強靱な身体・ダンスで観客を魅了する。バレエダンサーや小学生、身体に障害のあるダンサーへの振付を手掛ける一方、スピッツ、エゴラッピンほかのMVにも出演。ダンサーとしては中村恩恵・小野寺修二・白井剛らの振付作品に参加してきた。

◎2017年4月19日～29日、11月公演『堆積 -Accumulations-』の創作活動として滞在
◆滞在メンバー：鈴木ユキオ、安次嶺菜緒、堀井妙子、赤木はるか、竹内英明、河内崇



Photo: Teppei Hori



岡田利規 / チェルフイツチュ Toshiki Okada / chelfitsch

従来の演劇の概念を覆し、国内外で注目される。主宰の岡田は2005年に『三月の5日間』で第49回岸田國士戯曲賞、2007年に『わたしたちに許された特別な時間の終わり』で第2回大江健三郎賞を受賞。2014年以降は美術界でも活躍。2015年、初の子どものためのお芝居『わかったさんのクッキー』を演出し、翌年、穂の国とよはし芸術劇場PLATにて上演。

◎2017年7月3日～9日、12月からツアー公演する『三月の5日間』リクレーションの創作活動として滞在
◆滞在メンバー：岡田利規、朝倉千恵子、石倉来輝、板橋優里、渋谷采都、中間アヤカ、米川幸リオン、渡邊まな実、黄木多美子、兵藤茉衣

浅井信好 / 月灯りの移動劇場 ★ Nobuyoshi Asai / Tsukiakari-Theater

月灯りの移動劇場の総合プロデュース・演出・振付、照明や美術のデザインを手掛ける浅井は、ストリートダンスにはじまり山海塾所属を経て、ベルリン、イスラエルで在外研修。代表作『ABSTINENT』はアルテ・ラグナ国際アートアワード2012(ベネチア)で日本人初の特別賞を受賞した。他にも、これまで35カ国150都市以上で公演や展覧会を行っている。

◎2017年8月25日～28日、10月公演『アイウオーラおばさまの家』の創作活動として滞在
◆滞在メンバー：浅井信好、奥野衆英、布施安寿香



相模友士郎 ★ Yujiro Sagami

2009年、伊丹で70歳以上の市民と共同制作した舞台『DRAMATHOLOGY / ドラマソロジー』を発表、フェスティバル / トーキョー10に正式招聘される。2012年にはダンス作品『天使論』をTPAM in YOKOHAMA2012で発表し、好評を博す。様々なコミュニティの中に入り込み、そこにいる人々と共に“見る”という身体的経験を問い直すような舞台作品を発表している。

◎2017年9月20日～27日、9・10月公演『ナビゲーションズ』の創作活動として滞在
◆滞在メンバー：相模友士郎、佐藤健太郎、光井優太

中村 蓉 ★ Yo Nakamura

早稲田大学モダンダンスクラブにて活動開始。2009年より小野寺修二、近藤良平、室伏鴻の振付作品に出演、アシスタントを務める。2010年より自身の創作を始め、音楽・言葉・物語・小道具ほかを総動員してひとつの世界を創り上げる。Dance Dance Dance@YOKOHAMA2015では横浜各地で撮影した15秒のPR映像に振付・出演、大好評を得た。国内外で活動中。

◎2017年9月27日～10月9日、11月公演『理の行方』の創作活動として滞在
◆滞在メンバー：中村蓉、酒井直之



Photo: 前澤秀登



平井優子 ★ Yuko Hirai

幼少よりクラシックバレエを学ぶ。コンテンポラリーダンス転向後、空間や映像と身体のコラボレーションを得意とするアーティストに。2001年、ダムタイプのメンバーとしても始動する。2010年頃から故郷・岡山県でも活動を展開。岡山の山間部で『猿嬌 - The face of strangers -』滞在制作以降、声や民話を題材にしたプロジェクトを継続している。

◎2017年11月25日～12月9日、2018年3月公演『変身 DRY WOOD編』に向けたムーブメントリサーチとして滞在
◆滞在メンバー：平井優子、白井剛

Rie Tashiro / AYATORI ★

ストリートカルチャーに刺激を受けてダンスを始めたRie Tashiroが、2016年に「AYATORI」設立。一本の糸の輪にたくさんの手が入って作品が大きく展開するようにと想いがこめられたとあり、個の力を強く持ったアーティストを集めて活動する。テクノロジーや現代的なメディアを用い、人間のコミュニケーションやドラマを感じさせるダンス作品を発表。

◎2017年12月19日～28日、2018年1月公演『身体の岸边』に向けたムーブメント及び音楽・テクニカルのリサーチとして滞在

◆滞在メンバー：Rie Tashiro、山口紘、樋口帆波

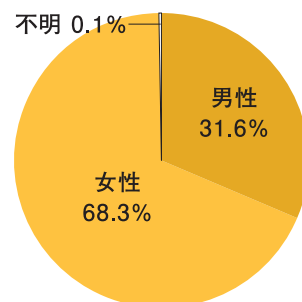


Photo: Nozomi Teranishi

★印のアーティストは公募参加

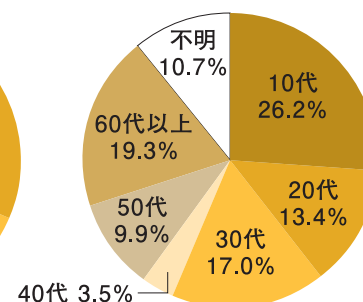
Data & Voice

参加者の男女比



女性が7割弱

参加者の年代別割合



小学生・シニア世代も多数参加

レジデントアーティスト
および滞在メンバー……………29名
創作活動参加メンバー……………8名
合計 37名

ワークショップの参加者数……142名
成果発表会の参加者数……130名
稽古場見学の参加者数……34名

アーティスト滞在日数……68日 イベント開催日数……20日
参加者合計 306名



Voice 1

これほど近距離でダンス作品を見る体験は稀有で、作品を見ているというよりも作品の中に入って眺めているという感覚でした。
(ワークショップ参加者・年代未記入・男性)

Voice 2

バレエやヒップホップ、あちこち見に行くのですが、今日は初めてのジャンルでした。難しくてよく分からなかったけど、驚きながら見ました。
(ワークショップ参加者・60代・女性)

Voice 3

まだ未完成の部分もありとかですが、研ぎ澄まされた空気感に魅了されました。
(ワークショップ参加者・50代・男性)

Voice 4

身体の扱い方の工夫を感じさせてもらいました。呼吸法、力の入れ方・抜き方、等々。
(ワークショップ参加者・60代・男性)

Voice 5

ダンス…というよりアート。故郷の海の映像と平井さんや子どもたちの動きがとても融合していて、うれしかったです。
(成果報告会来場者・50代・女性)

Voice 6

子どもが遊びながら新たな感覚に出会えるワークショップだったと思います。また、こんなワークショップがあったら参加したいです。
(成果報告会来場者・40代・男性)

※アンケートは一部抜粋。



浅井信好 / 月灯りの移動劇場 ワークショップより



劇場は、ぼくらのもの——

豊橋アーティスト・イン・レジデンス 2017〈ダンス・レジデンス〉事業報告書
2018年3月発行

発行：豊橋市 / 公益財団法人豊橋文化振興財団


PLAT
穂の国とよはし芸術劇場
TOYOHASHI ARTS THEATRE